

放課後児童クラブで 楽しく消費者教育

高知市消費生活センター

このコーナーでは、消費者教育の実践事例を紹介します。

高知市消費生活センターでは、2012年度から、高知市放課後児童クラブでの消費者問題出前講座(以下、講座)に取り組んでいます。児童クラブで過ごす小学1年生から3年生を中心とした子どもたちが、楽しみながら身近な消費生活の知識を学べるように、ゲームやクイズを取り入れた講座を行っています。

児童クラブとの連携のきっかけ

2012年に消費者教育推進法が施行され、当センターでは、子どもを対象にした消費者教育に取り組むこととし、その連携先を探していました。

一方、児童クラブでは、子どもの預かり時間が特に長い夏休みには、放課後児童支援員(以下、支援員)が日々の活動の計画に苦心しているようでした。そこで、夏休み前に、市役所の児童クラブ担当課を通じて、講座の案内文書を配布したところ、2012年度には14クラブ546人の子どもたちに講座へ参加してもらうことができました。イベント需要があったところに、公的機関が実施する講座という安心感も手伝って、申し込んでもらったのだと思われます。

翌年度からも同様に希望を募り、小学校の夏休み時期を中心に児童クラブで講座を行っています。支援員同士の情報交換や、講座を体験した支援員の別児童クラブへの異動などで、年々利用が広がっていき、2016年度には市内81クラブのうち47クラブで、1,546人の子ども

たちに参加してもらうことができました。

楽しく学べるプログラム

講座の内容は、当初は「買い物ゲーム」だけでしたが、毎年同じ内容の繰り返しにならないようにするため、年を追ってプログラムを増やしていきました。現在は「買い物ゲーム」「食品表示クイズ」「くらしの中のマークさがし」の3つのプログラムがあり、児童クラブごとに希望の内容を申し込んでもらっています。

(1) 買い物ゲーム

「班でカレーを作って、楽しくカレーパーティーをする」という目的のために、カレーの材料やパーティーで食べたいものを考えて、模擬店で買い物をするゲームです(表1、写真1・2)。目的に応じたものを、計画を立てて、予算内で買う、という体験を通じて、お金の使い方について考え、金銭管理能力を培うことをめざしています。

(2) 食品表示クイズ

お菓子やジュースなどの包装からさまざまな表示を探すクイズを通じて、食品表示の意味を知り、生活に生かすことを目標にしています(表2、写真3)。

(3) くらしの中のマークさがし

日常で目にする禁止・注意・許可・交通標識などのマークを例に、マークに意味があることを理解してもらいます。その後、身近な商品にもさまざまなマークが付いていることを知って

表1 「買い物ゲーム」の概要

	時間	内容
導入	10分	・カレーを作るための材料を考える
展開	40分	・模擬店で商品の値段を調べる ・班で予算内で買う計画を立てる(買い物リスト作成) ・班の代表者が模擬店で買い物をする
まとめ	10分	・班ごとに結果や感想を発表する

表2 「食品表示クイズ」の概要

	時間	内容
導入	5分	・子どもに食品表示についての意識を聞く
展開	45分	・ポテトチップスの袋を使い、主な表示を解説する ・お菓子やジュースの包装から表示を探す班対抗クイズゲームを行う
まとめ	10分	・原材料の違う2種類のプリンを温める実験も交えて、表示の大切さを確認する

表3 「くらしの中のマークさがし」の概要

	時間	内容
導入	15分	・日常よく見るマークの意味を知る
展開	35分	・班ごとに、ノート、折り紙、花火などの身近な商品からマークを探す ・商品に付いているマークの意味を知る
まとめ	10分	・マークによって商品選択することを考える

もらい、商品に付いているマークに興味を持つことをめざしています(表3、写真4)。

これらのプログラムを作るに当たって注意したことは、学年や理解力に幅がある子どもたちが一斉に講座に参加するという点です。どうすれば全員に講座の内容や進度についてきてもらえるかを考えた結果、学年を縦割

りにした班単位でゲームやクイズを行うことにしました。班の中で、3年生にはリーダー的な役割を期待し、1年生にはできる限り内容についてきてもらうことをめざしました。

また、子どもたちに講座内容を身近に感じ、体験した満足感を持ってもらうために、教材は子どもたちが普段使っている・買っている商品の実物容器や模造品を用意しました。

今後も子どもたちに「気づき」の種を

「くらしの中のマークさがし」の講座を行った後に、子どもたちが自主的に身の回りのマーク

写真1 「買い物ゲーム」まとめのようす



写真3 「食品表示クイズ」で使用する教材



写真2 「買い物ゲーム」模擬店の商品



写真4 「くらしの中のマークさがし」で使用する教材



を探す遊びを始め、着ている服の洗濯表示を見つけて、「こんなところにもマークがある！」とうれしそうに報告してくれたことがありました。他のプログラムの講座でも、子どもたちの反響は大きく、これら講座を通じて、子どもたちの中に、今後の生活に生かせる「気づき」の種をまけていると感じています。

今後も、子どもたちが楽しく学べる講座内容、運営方法などのノウハウを磨き、学校や地域団体との連携にも発展させられるように取り組んでいきたいと考えています。